



待降節第 3 主日 (ルカ 3:10-18)

わたしたちはどうすればよいのですか

「群衆は、『では、わたしたちはどうすればよいのですか』と尋ねた。ヨハネは、『下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ』と答えた。」(ルカ 3・10-11) 今日わたしたちは2つの意味で、「わたしたちはどうすればよいのですか」と声を上げる必要があります。

1つは、「この待降節中に、わたしたちはどうすればよいのですか」ということであり、もう1つは、「いつくしみの特別聖年が始まりました。わたしたちはどうすればよいのですか」ということです。

ただし、答えを2つ探す必要はないと思います。今年の待降節中に、「いつくしみの特別聖年」が開年したのですから、わたしたちはただ1つの答えを見つけ出せばよいのではないのでしょうか。

10月の中旬、趣味のボート釣りで12kgのブリを「ぶりあげ」しました。イトヨリ釣りの、0.8号のPEに3号のリーダー3mの、晩のおかずが釣ればなあという仕掛けだったのです。住宅のブロック塀に使うブロックを2個、釣り糸にぶら下げたような重みが突然竿に伝わりました。格闘すること20分。嘘だと思ったらこの教会の玄関右の写真集、浜串教会聖堂の写真を貼り換えていますので、あとでご覧になってください。

個人的な話をもう少し。わたしは病院でコレステロール値を下げる薬と尿酸値を下げる薬を処方されています。ある時生活習慣病検診を受け、検査結果を見た先生がこう言いました。「どの数値も標準値の中に納まっています。いいですよ～。このままの生活を続けてください。」わたしは顔には出しませんでしたが、「このままの生活でいいのか～」と、心の中でニヤッとしていました。

「わたしたちはどうすればよいのですか。」もちろん、こんな答えでは全く答えになっていません。洗礼者ヨハネが「群衆・徴税人・兵士」という3つのグループに勧めを与えたように、わたしも今ここで、3つの例を示したいと思います。まずその前に、洗礼者ヨハネが示した3つの勧めをおさらいしましょう。

ヨハネが示した勧めは、どれも「悔い改めにふさわしい実を結べ」という共通の目標を形にしたものです。そして3つのグループを「一般の人々」「特殊な任務にある人々」「一般の人々にも特殊な任務の人々にも安心安全な生活を保障する任務にある人々」と考えるなら、そのままわたしたちにも当てはまってきます。

ではわたしたちの共通の目標とは何でしょうか。それは「いつくしみの特別聖年」のモットーである「御父のようにいつくしみ深くなりなさい」です。このモットーを、3つのグループ「一般の人々」「特殊な任務にある人々」「一般の人々にも特殊な任務の人々にも安心安全な生活を保障する任務にある人々」に当てはめてみたいのです。

ところで、モットーの「御父のようにいつくしみ深くなりなさい」

ですが、御父はどれほどいつくしみ深い方なのでしょう。それは、御自分の独り子を、人類に渡されるほどです。しかも二度もです。一度目は誕生の神秘において、二度目は十字架上の神秘においてです。

わたしたちが信じる神は全能ですから、不可能などありませんが、ただ一つ人間の心情で考えた時、わが子を明け渡すこと、これだけは不可能なことではないでしょうか。それを父なる神は二度も、最終的には十字架上で明け渡してくださったのです。この「あわれみの神秘」によって、神の全能が示されました。

ですから「御父のようにいつくしみ深くなりなさい」というのは、「全能の神が心を引き裂かれるほどの思いで示したいつくしみの模範に倣いなさい」ということではないでしょうか。この模範に倣うことがたやすくはないことは、だれがどう考えても明らかです。

わたしたちが御父に倣っていつくしみを示そうとするとき、何の努力も骨折りもせず果たせるなどと思ってはなりません。御父のいつくしみをその誕生の瞬間から示してくださったキリストは、温かい産着にくるまっていつくしみを示したではありません。布切れに包まれ、飼い葉おけに寝かされた姿で示したのです。人類の罪を赦すといういつくしみを、華々しい舞台上で示したのではなく、十字架の上で示したのです。「どんな困難にあっても、わたしたちは御父に倣っていつくしみを示します。」そういう覚悟が必要でしょう。

そこで3つのグループのためにいつくしみのわざの例を示したいと思います。一般信徒の皆さんは、自分を傷つけた相手をゆるすことで、いつくしみを示してください。「ゆるせないと思うことが幾度もあることでしょう。けれどもゆるすとは、心の平安を得るために、わたしたちの弱い手に与えられた道具なのです。」（「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」9）

一般に「シスターや修道士」と言われる奉献生活にある人々は、「特殊な任務にある人々」です。イエスの「わたしに従いなさい」とのみことばにより深くとどまる生き方です。期間中、奉献生活にある方々には、「あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたもあわれみ深い者となりなさい」（ルカ 6・36）のみことばにじっくり耳を傾けてください。「いつくしみがもてるよう、神のことばをまずじっくりと聴かなければなりません。」（「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」13）

神のことばをじっくり聴くには、十分な沈黙の時間が必要です。与えられたみことばに対して、まるで氷山の沈んでいる部分のような、一見不釣り合いとも思える沈黙の時間が必要なのです。幸い奉献生活者には生活に適度な沈黙の時間が組まれているので、より一層神のことばに潜心することができます。

奉献生活者の沈黙の時間は、教会共同体を動かすエンジンです。沈黙の中で神のことばに照らされ、温められたエンジンはいつくしみを世に示す教会共同体の働きを力強く前に推し進めてくれます。これまで以上に、神のことばに温められ、その熱をさまざまな歯車に伝えてください。

司祭にも、「御父のようにいつくしみ深くなりなさい」との呼びかけに自らを差し出すまたとない機会が与えられました。それはゆるしの秘跡においてです。「聴罪司祭であることは、イエスと同じ使命に参加すること、そして、ゆるしを与え救いをもたらす神の愛が、途切れることなく続いていることを示す具体的なしるしとなる（からです。）」（「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」17）

司祭は、痛悔者それぞれの心の中にある、救いを求める神への祈りと罪のゆるしの願いを、たちどころに理解する」（同 17）者でなければなりません。「要するに聴罪司祭は、いつでも、どこでも、どんな状況でも、何があろうとも、いつくしみの第一のしるしであることを求められているのです。」（同 17）

「わたしたちはどうすればよいのですか。」いつくしみの特別聖年期間中、一人ひとりが神のいつくしみを映し出す鏡になってください。イエス・キリストが御父のいつくしみのみ顔であったように、わたしたちも置かれた場所で、神のいつくしみを映し出す者になりたいと思います。

「あなたのいつくしみはどこから来るのですか。あなたはなぜ、何も当てにしないでいつくしみを示すことができるのですか。」もしこのように人々が問いかけてきたなら、あなたは最高に自分の使命を果たしている人です。そのとき人々は、あなたを通していつくしみ深い父を、またイエス・キリストを眺めることになるからです。